

# 中近世農業史の再解釈

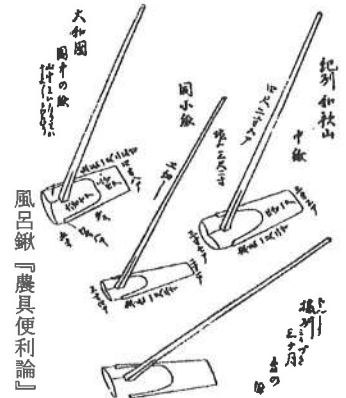
## 『清良記』の研究

伏見 元嘉 著

2011年5月刊行

▶A5判・416頁／定価8,190円(税5%込) ISBN978-4-7842-1562-1

伊予国の戦国武将土居清良の一代記『清良記』全30巻を分析。その著者および成立年代を確定し、日本最古の農書とされる第7巻「親民鑑月集」を再検証。近世農業の始まりとしての農書という定説をくつがえし、中世農業の最終段階をはじめて詳説したものと位置づけなおす。



### 内容目次

#### 第Ⅰ部 「軍記」の解釈

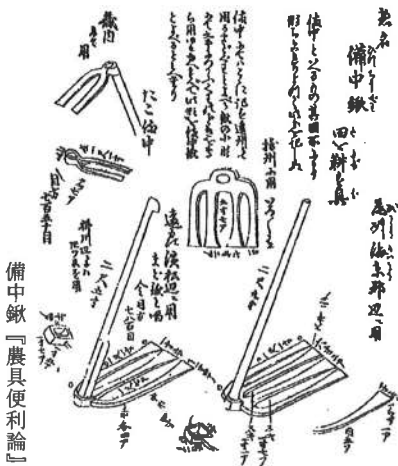
- 第一章 『清良記』をめぐる  
研究の経過／『清良記』の概要
- 第二章 軍記『清良記』の検証  
土居清良の時代背景／全編からの疑問／清良の遠征にかかわる疑問／「第七巻」からの疑問
- 第三章 軍記の検証からみえるもの  
原本『清良記』の成立時期／改編された『清良記』／将棋の記述について／架空の人物・松浦宗案
- 第四章 「第七巻」の検証  
松浦宗案の語るもの／改編の背景／「隙」「暇」の検証／改編者について

#### 第Ⅱ部 農書の解釈

- 第一章 「第七巻」いわゆる農書としての疑義  
徳永光俊氏の「見通し」から／近世前期南伊予の耕地面積と人口と牛／「第七巻」労役記述の検討／「第七巻」肥料記述の検討
- 第二章 關持制度と「本百姓」の成立  
「一両具足」と「一廉」／吉田藩の關持制度／關持制度と労役
- 第三章 近世前期の営農と『清良記』の位置づけ  
「本百姓一廉」の経営と収穫量／村の階層別経営と銀納制／『清良記』改編者の農業観と『清良記』の位置づけ

#### 第Ⅲ部 「農業史」再見

- 第一章 「水田稲作」の再見  
稲作の揺籃／開墾と土木具／水田稲作と耕起／水田と肥料／田の品位・田制
- 第二章 中世・近世前期「農術」の展開  
「農術」の萌芽／「農術」の祖形／「農術」の成長／豊臣政権と「農術」／徳川政権と「農術」
- 終章 農書としての『清良記』研究の意義  
村の安定をめざして／飯沼二郎氏の『松浦本』序文から



ふしみ・もとよし…1941年大阪府生。陸舶資材商、自動車販売店勤務を経て損害保険技術アジャスターを勤める。郷土史研究者。  
 【論文】『清良記』の傍証研究—将棋記述よりのアプローチ』（『伊予史談』321号, 2001年）. 『清良記』の改編者と成立過程』（『伊予史談』326号, 2002年）. 「軍記物『清良記』の解釈」（『伊予史談』336号, 2005年）

思文閣出版

〒606-8203 京都市左京区田中関田町2-7 tel. 075-751-1781 fax. 075-752-0723  
 http://www.shibunkaku.co.jp E-mail: pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行: 思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	中近世農業史の再解釈		本体7,800円(税別)	ISBN978-4-7842-1562-1
お名前		tel			
		e-mail			
ご住所	〒				
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい) <input type="checkbox"/> 代引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い下さい)				書店番線印

## 畿内の豪農経営と地域社会

渡辺尚志編

18世紀末以降、河内国丹南郡岡村（現藤井寺市）の庄屋を世襲し、豪農・地方名望家である岡田家。近世・近代において同家が作成・授受した「岡田家文書」1万数千点を多角的に分析し、畿内における村落と豪農の特質を経済・社会構造の観点から解明する。

▶A5判・508頁/定価8,190円

ISBN978-4-7842-1385-6

## 伝統産業の成立と発展 播州三木金物の事例

桑田優著

兵庫県三木市の伝統産業、三木金物の流通機構の発達など社会的な背景にも着目し、三木金物が特産品として全国市場へ進出してゆく過程を跡付ける通史。【内容】近世三木町における前挽鋳造仲間の成立と発達/第二次世界大戦後における伝統産業の発展と同業組合 ほか

▶A5判・300頁/定価6,825円

ISBN978-4-7842-1523-2

## 近世吉野林業史

谷彌兵衛著

史料に基づき実証的に明かした本書は、吉野林業を初めて通史的にとりあげた研究。【内容】近世吉野林業史研究の視点/借地林業概念とそのイデオロギーの役割/吉野地方における育成林業の開始/小農型林業の生成/小農型林業の発展/小農型林業の変質 ほか

▶A5判・538頁/定価9,765円

ISBN978-4-7842-1384-9

## 近世の環境と開発

根岸茂夫・大友一雄・佐藤孝之・末岡照啓編

環境問題が議論される中でしばしば近世の環境や生活が理想的と論じられる。はたしてそれは事実なのか。江戸時代の現実に沿って、村落・河川・山野・鉱山を題材に、環境と開発の問題について改めて問い直す論文集。研究会を開催し各執筆者が研究発表と討論を重ねた成果。

▶A5判・366頁/定価7,875円

ISBN978-4-7842-1544-7

## 東アジアの本草と博物学の世界[上・下]

山田慶兒編

18世紀、西洋の大航海時代と植民政策、日本の幕府・諸藩の殖産政策と外国貿易により、日本で遭遇した博物学と本草学。それらにおける知的冒険の展開を、学問・産業・芸術のような分野への影響も含めて、多角的に考察した21篇。国際日本文化研究センターでの共同研究。

▶A5判・総740頁/定価各7,875円

ISBN4-7842-0883-6/0885-2

## シーボルトが蒐集したシダ標本

加藤億重著

オランダ国立植物学標本館ライデン大学分館に所蔵されている、シーボルトコレクションの約1,000点のシダ標本を、20年にわたり調査した成果を豊富な図版（カラー口絵14点・モノクロ600点）とともにまとめる。標本642点・1009カットのカラー画像を収録したDVD付録付。

▶A5判・388頁/定価7,350円

ISBN978-4-7842-1550-8

## 日本産業技術史事典

日本産業技術史学会編

日本近代化の歩みを支えた産業技術の変遷を俯瞰する「読む事典」。【項目】道具/機械/素材/人工の素材/産銅業/石炭産業/動力と動力システム/鉄道と船/航空機と自動車/情報・通信/生産技術/農業・林業・漁業/食品加工業/繊維と衣服/耐久消費財 ほか

▶B5判・550頁/定価12,600円

ISBN978-4-7842-1345-0

## ※愛媛県の教育史

影山昇著

都道府県の教育史シリーズ3

愛媛県の特徴ある教育・文化を紹介し、寺子屋・郷学校・私塾・藩校などの教育施設のほか、広く社会・宗教・産業教育などにもふれ、古代から明治前期までを扱う。また、教育・文化に貢献した人物を取りあげ、教育的事跡を紹介。

▶46判・368頁/定価1,890円

ISBN4-7842-0374-5

## 近世社会と百姓成立 構造論的研究

渡邊忠司著

佛教学研究叢書1

近世社会において零細な高持百姓が経営の自立と再生産を可能としていた「条件」は何であったのか。領主権力による「成立」の構造を再検証し、百姓の観点から百姓自らが創出した「成立」の条件と構造を年貢負担と村内の組織成、質入の検討により解明する。

▶A5判・310頁/定価6,825円

ISBN978-4-7842-1340-5

## ※近世後期瀬戸内塩業史の研究

山下恭著

塩、醤油業における開発・経営・塩専売制・流通問題を分析し、さらに塩業における燃料問題と労働条件を数量的に解明した基礎的研究。

【内容】近世後期赤穂前川浜の開発/近世後期龍野醤油醸造業者の塩田経営/近世後期赤穂塩業の燃料革命 ほか

▶A5判・300頁/定価6,300円

ISBN4-7842-1287-6

## 日本近世染織業発達史の研究

貫秀高著

近世において、大規模産業として成長し、文化・生活の向上に大きな役割を果たした染織業。本書はその発達の推移を、生糸の輸入状況や技術の発達などの関連において、詳しく分析した労作。

▶A5判・780頁/定価12,600円

ISBN4-7842-0852-6

## 黒正巖著作集 [全7巻]

黒正巖著作編集委員会編

全7巻構成で1920～1940年代に展開された黒正史学の全貌を明らかにする。【内容】第1巻:百姓一揆の研究/第2巻:百姓一揆論/第3巻:岡山藩の研究/第4巻:社会経済史の研究/第5巻:経済地理学の研究/第6巻:日本経済史/第7巻:農史の研究、年譜・著作目録

▶A5判・総2,800頁/定価58,800円

ISBN4-7842-1122-5

## 本草学と洋学 小野蘭山学統の研究

遠藤正治著

東アジアの伝統的科学的の一つである本草学。日本本草学の頂点である小野蘭山の学統を考察対象にし、洋学の影響を受け国際的視野を備えた博物学的な本草研究の実態を探り、わが国最初の近代的植物図譜『草木図説』誕生の環境を明かす。

▶A5判・400頁/定価7,560円

ISBN4-7842-1155-0

## ※牧野標本館所蔵のシーボルトコレクション

加藤億重著

シーボルトの死後、ロシアのマキシモヴィッチに売却された植物標本やその他の資料は1963年ソビエトのコマロフ植物研究所からその一部が日本の東京都立大学牧野標本館に送られてきた。本書は、このコレクションを約10年間に渡って精査してきた成果。

▶A5判・294頁/定価5,670円

ISBN4-7842-1165-9

## 瀬戸内海地域社会と織田権力

橋詰茂著

思文閣史学叢書

特産物の塩、周辺物資の海上輸送、在地権力の動向、海賊衆や真宗勢力の台頭、制海権をめぐる抗争など、瀬戸内海・四国をとりまく実態を明かす。【内容】第1編:瀬戸内海社会の形成と展開/第2編:瀬戸内海社会の発展と地域権力/第3編:地域権力と織田権力の抗争

▶A5判・396頁/定価7,560円

ISBN978-4-7842-1333-7

## ※日本近世地誌編纂史研究

白井哲哉著

思文閣史学叢書

領主支配における文化行為の意義に着目。地誌編纂を一つの政治的文化行為と位置づけ、その機能や実態について明かし、また日本の地方史・地域史研究に対する歴史的考察の観点から、様々な地誌の具体的な編纂活動を取りあげる。

▶A5判・386頁/定価9,660円

ISBN4-7842-1180-2

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。  
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。